



2016年12月19日  
日本ファイナンシャル・エンジニアリング株式会社

## あおぞら銀行様が大規模バッチ処理の超高速開発ツール「ODIP」を導入

日本ファイナンシャル・エンジニアリング株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：吾郷 中信、以下「JFE」）は、株式会社あおぞら銀行（本社：東京都千代田区、代表取締役社長兼最高経営責任者：馬場 信輔、以下「あおぞら銀行」）の勘定系システム更改に伴い、大規模バッチ処理の超高速開発ツール「ODIP」をご採用いただきました。あおぞら銀行様では、収益管理やリスク管理のためのデータマートの開発に「ODIP」を活用し、2016年5月に本稼働させました。

今般導入された勘定系システムは従来のシステムとコンセプトが大きく異なるため、関連する情報系システムやサブシステムなど、ほぼ全てのシステムの変更が必要でした。その対応を最小限にするため様々な工夫が積み重ねられましたが、収益管理やリスク管理等のシステムは多数のシステムからデータ連携を必要とするため、データマートを再構築する方針をとられました。リソースと開発期間を最小化するために開發生産性と品質の確保を目的とし、併せて本稼働後のシステム保守開発の生産性も大きく向上することを期待してODIPをご採用いただきました。

### ODIPご採用のポイント

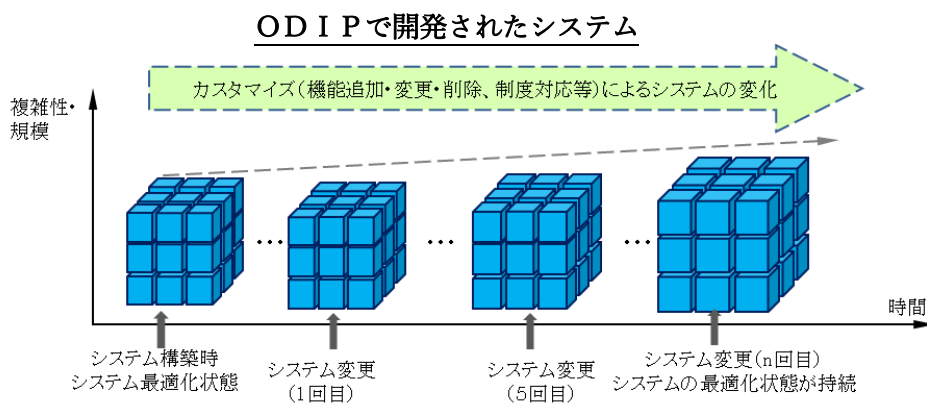
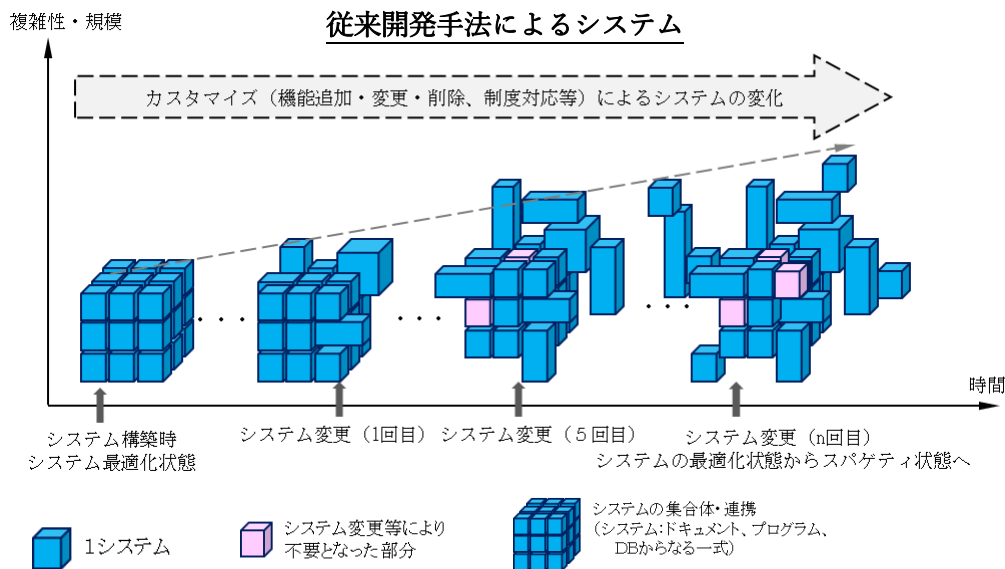
- ▶ 生産性が非常に高い（開発テスト部分においては従来開発手法の約6倍）
- ▶ 開発フェーズにおいて不具合が入らないため、品質が担保される
- ▶ 要件を確定した部分から段階的に開発を進めることができ、手戻り作業の影響が従来手法より格段に小さい
- ▶ メタデータ管理ができるため、変更対応において影響範囲が瞬時に把握できる
- ▶ ODIPは、業務ロジック表記の構造が統一化されていることと、その業務ロジックをGUIで定義することで開発できるため、ツールを短期間で習得できる
- ▶ テスト確認が簡単

JFEは、今回のプロジェクトにおいてODIPを用いたデータマート作成処理の開発から本稼働後の保守、ODIP導入から開発環境の構築・維持管理、そしてODIPの技術研修まで幅広く対応いたしました。

ODIP導入後のあおぞら銀行様の評価は高く、今後同ツールを他システムに広げていく意向と伺っております。

## ODIP (Ontology Driven Information Processing) について

生産性向上ツールの中で、オンライン（画面）系ツールは、多数製品がありますが、ODIPは、バッチシステムの開発を行うための超高速開発ツールです。ODIPは、システムの見える化と共に業務ロジック表記の構造が統一化されていることから俗人化の排除を行うとともに、システム変更の影響分析を瞬時に把握でき、修正を重ねるごとに複雑化するプログラムロジック（システムのスパゲティ化）と中間ファイル生成（ファイルのスパゲティ化）を回避することができ、常にシステムの最適化状態を保つことができます。また、それ以外に様々な生産性向上機能としてメタデータ管理やテスト支援機能等が提供されています。



ODIPは、[株式会社インテリジェント・モデル](#)の製品でJFEは、パートナー兼販売代理店です。

本件に関するお問い合わせ先

[日本ファイナンス・エンジニアリング株式会社](#)

TEL: 03 (5447) 1865 E-mail: [salesinfo@jfe.co.jp](mailto:salesinfo@jfe.co.jp)